

BOGIE

SATOSHI NISHIGAKI GLASS EXHIBITION

JUNE 18 TO 26, 2022



料金後納
ゆうメール



西垣聡ガラス展 BOGIE

2022年6月18日(土)～26日(日)

営業時間 11時～18時 最終日は17時迄
作家在廊日 6月18日
ギャラリーうつわノート
埼玉県川越市小仙波町1-7-6
049-298-8715/utsuwanote@gmail.com

1984年 京都生まれ
2011年 富山ガラス造形研究所 造形科 卒業
2011年 富山ガラス造形研究所 助手
2014年 金沢卯辰山工芸工房 入所
2021年 長野県池田町にて「touca」を設立
2022年 現在、同地にて製作

ポギーのごとくハードボイルドに決めて欲しいグラス。差がつく男のギア、という謳い文句は
かなり古いですが、ナイフ・時計・カメラ・アウトドア用品などありましたよね、そんな感覚。
厚く吹いたガラスを根気良く削り出したグラスやショットグラス、そして新作のゴブレット。
見た通り「鋳（びょう）」のような凹凸が特徴で、バンクファッションで使われるスタッズのよう
であり、調和的な優しさよりも、所有物としての存在感が光るギア感覚が良いのです。昨今は
生活に溶け込む角の立たないガラス器が尊ばれる中で、敢えて刺々しく角の強い造形を前面に
押し出したモノの在り様を問うグラスとも言えるでしょう。生まれは京都。地元で美容師の職を
経て、富山ガラス造形研究所で基礎を学んだ後に助手。さらに金沢卯辰山工芸工房で作家として
の独自スタイルを築きました。ガラス作家にとってガラス研、卯辰山は美術工芸のメッカであり、
日用のガラスよりも美術、オブジェ寄りの作品志向の強いイメージがありますが、このスタッズ
グラスに見られるように、西垣さんのガラスは実用+スタイルを求めた「かっこ良さ」が特徴です。
それは所有する人の満足感=物欲に直結するストレートな表現だと思えます。2020年に富山県
から長野県北安曇野郡に居を移して、弊社で二回目となる個展です。どうぞご高覧ください。

店主



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場[小江戸名所めぐり]～[喜多院前]
駅西口2番乗場[小江戸巡回バス]～[喜多院]
車：ギャラリー専用の駐車場は北側(5～8番)